特集

# 鶴丸城 御楼門

## ついに完成！ 鹿児島の新たなシンボル

明治6年（1873年）に火災で焼失した鹿児島（鶴丸）城のシンボル「御楼門」。

平成27年から復元に向け官民一体となって建設を進め、今年3月、ついに工事が完了し、4月からその姿が公開されました。

そこで今回は、現代によみがえった御楼門の魅力などについてご紹介します。

現代によみがえった御楼門

明治初期に撮影された焼失前の御楼門（尚古集成館 蔵）

# 日本最大の城門であった「御楼門」

鹿児島（鶴丸）城は、慶長6年（1601年）頃に、のちに初代藩主となる島津家第18代当主・家久が建設に着手した島津氏の居城で、背後の山城（城山）と麓の居館からなる城です。居館の正面中央の御楼門は鶴丸城のシンボル的な存在でしたが、明治6年（1873年）の火災で焼失しました。

その大きさは、高さ・幅ともに約20メートルもある日本最大の城門だったとされています。

※県歴史・美術センター黎明館「歴史と鹿児島市城山」

## 城の歴史

| | |
|---|---|
| 慶長6年（1601） | 島津家久が鹿児島（鶴丸）城の築城を始める（1602年説あり） |
| 慶長17年（1612） | 御楼門の柱立 |
| 天保14年（1843） | 御楼門の建て直し（1844年説あり） |
| 明治5年（1872） | 明治天皇行幸 |
| 明治6年（1873） | 鹿児島城本丸、御楼門が焼失 |
| 明治10年（1877） | 西南戦争、二之丸が焼失 |
| 明治34年（1901） | 第七高等学校造士館設立 |
| 昭和58年（1983） | 鹿児島県歴史資料センター黎明館（現：鹿児島県歴史・美術センター黎明館）開館 |

天保14年城下絵図（鹿児島県立図書館 蔵）

# 鹿児島の新しいシンボルとして現代へ

## 民間主導で始まった建設

御楼門建設事業については、鹿児島経済同友会が中心となって復元計画を提言したことから始まりました。その後、経済団体などがつくる「鶴丸城御楼門復元実行委員会」が企業や個人に募金を呼びかけた結果、目標額の4億5千万円を達成。この民間における募金活動の盛り上がりを受けて、県と鹿児島市も取り組みを支援することとなりました。平成27年には、県と民間による鶴丸城御楼門建設協議会を設立し、官民一体となって御楼門の建設を進めました。

## 御楼門建設の意義とは

御楼門の建設は、鹿児島の歴史や文化、建築技術の継承のほか、新たな観光拠点づくりとしても意義のあるものです。

御楼門が鹿児島の新しいシンボルとして現代へよみがえることで、文化施設などが集中する「かごしま文化ゾーン※」のさらなる充実や街中のにぎわい創出など、地域活性化につながることが期待されます。

※詳しくは9ページをご覧ください。

完成式　鹿児島の新しいシンボルとなる御楼門が開門した

## 建設への温かい協力

御楼門の建設には、直径1mを超える大径木など多くの木材が必要でしたが、県内外から協力をもらい、木材を調達することができました。

### 岐阜県

江戸時代の薩摩藩士による宝暦治水の恩返しとして、大原爪の樹齢300年以上、幹周り4m・長さ8mもあるクヤキが贈呈されました。

### 湧水町

島津家久の父、義弘が居城とした松尾城があった縁から、樹齢100年以上の15本ものクヤキが贈呈されました。

このほか、平水市、霧島市、指宿市などの森林所有者からのご協力により貴重なスギ・ヒノキ・ケヤキ・マツを調達することができました。





# 御楼門復元までの歩み

## 史実に忠実な復元を目指して

火災で焼失する前の明治初期に撮影された古写真や、現存する礎石に残る柱の痕跡、埋蔵文化財の発掘調査の出土品などを参考とし、また、専門家の指導・助言を得ながら、可能な限り史実に忠実な復元が行われました。

瓦の模様や形状など江戸時代天保期の特徴を持つ御楼門からは、約150年前の往時の姿が感じられます。

復元した鬼瓦

発掘された鬼瓦

現在も残る礎石

## オール鹿児島で盛り上げるために

鶴丸城・御楼門についての理解を深め、完成に向けた機運醸成を図るためのさまざまなイベントが開催されました。

### 地元小学生による壁土作り体験会

地元の小学生に、御楼門2階の漆喰壁に使用する土作りを体験してもらいました。壁土には日置市産と岐阜県産の土を混ぜたものが使用されています。

### 瓦に名前を残す記名会

御楼門に愛着を持っていただくため、建設に使う瓦の裏側に名前やメッセージを残す瓦記名会を開催し、多くの方に参加いただきました。それぞれの瓦に皆さんの思いが込められています。

## 御楼門と一緒に訪れたいスポット情報

# かごしま文化ゾーン

御楼門がある「かごしま文化ゾーン」には、約1キロメートル圏内に文化施設や明治維新の立役者たちの銅像や記念碑などが多く建てられていて、ゆっくり歩きながら鹿児島の歴史や文化を感じることができます。

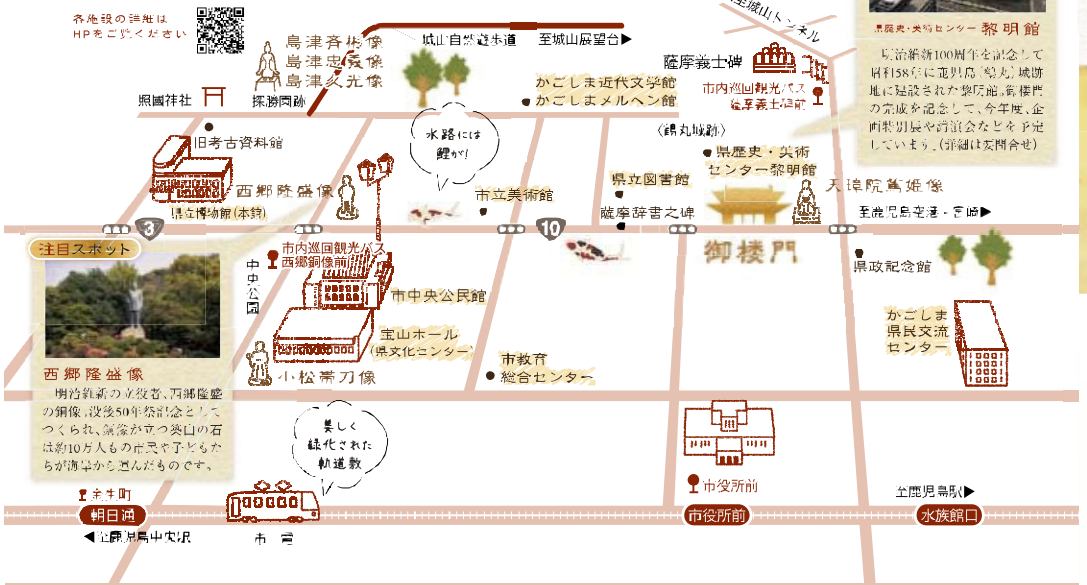
### かごしま文化ゾーンを構成する文化施設

- 県立博物館
- 市立美術館
- 県歴史・美術センター黎明館
- かごしま県民交流センター
- 県立図書館
- 宝山ホール
- 市中央公民館
- 市教育総合センター
- かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館

各施設の詳細はHPをご覧ください

県歴史・美術センター 黎明館

明治維新100周年を記念して昭和58年に鹿児島（鶴丸）城跡地に建設された黎明館。御楼門の完成を記念して、今年度、企画展や講演会などを予定しています。（詳細は友問合せ）






西郷隆盛像

明治維新の立役者、西郷隆盛の銅像。没後50年祭記念としてつくられ、銅像が立つ癸丑の石は約10万人もの市民や子どもたちが募金から選んだものです。

かごしま文化ゾーンへのアクセス

市：鹿児島中央駅から約10分
市内巡回観光バス：西郷銅像前・薩摩義士碑前で下車
JR：鹿児島駅から徒歩20分
市電：市役所前・朝日通電停から徒歩約5分

# 日本遺産 薩摩の武士が生きた町

勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地、鹿児島には、御楼門がある鹿児島（鶴丸）城跡のほか、「麓」と呼ばれる武家屋敷群が数多く残っており、これらの文化財は日本遺産として認定されています。各地の麓を歩けば、薩摩の武士たちの生き様が見えてきます。

山水苑武家屋敷群

公開武家屋敷 竹添邸（上水麓）

詳しくはコチラ

文化庁が2015年から始めた制度で、地域にある「日本独特の歴史や文化をテーマでまとめ、認定しています。

薩摩藩は他藩より武士の割合が高かったため、「外城制度」という独自の制度を築き、本城の鶴丸城だけでなく、各地の山城周辺に約120カ所もの「麓（武家屋敷群）」を作って武士を配置していました。

昨年5月、その外城制度の中心となる鶴丸城と、代表的な11カ所の麓に関連する文化財が日本遺産として認定されました。

JAPAN HERITAGE 日本遺産



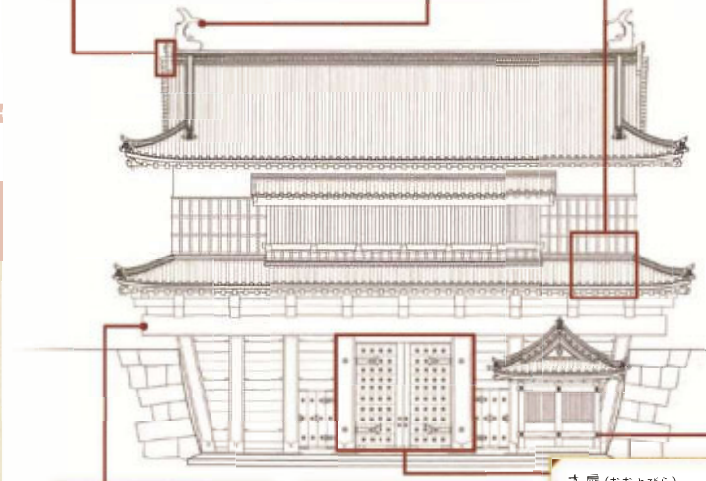
鶴丸城御楼門復元実行委員会
玉川 文生 委員長

明治維新から150年を迎えた平成30年に鶴丸城の御楼門復元に向けた建設工事が始まり、今年3月に完成を迎えました。

官民一体となって取り組んできた事業でしたが、復元にあたり、多くの皆様から寄付をいただき、この場を借りて深く御礼申し上げます。

かつて御楼門は、薩摩藩のシンボルとして、77万石の城下町の中心にありました。復元された御楼門が、鹿児島の新たな歴史学習の場や観光スポットとなり、回遊性のあるまちづくりに役立つことを期待しています。

## 完成した御楼門の見どころ！



**鬼瓦（おにがわら）**

**鯱（しゃち）**

**屋根瓦（やねがわら）**

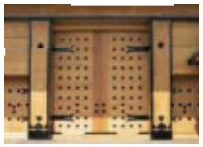
### 基礎構造

- 構造：木造２階建て
- 高さ：約20m
- 幅　：約20m
- 主柱（鏡柱）：約90cm×約70cm

**冠木（かぶき）**

**敷梁（しきばり）**

**大扉（おおとびら）**



**六翼（ろくよう）**